13
3795

門へ13
號 3795
巻

述意

凡ゑ刀物ゑ子で其他せるものハ尚所そ
流行に其跡ちかり是故ゑ
俗に初陽の賣ものとなきものの
ちかるをや画面に掛ふ品の圖
を容ざまして露異怪なる
もおかるにありと思ふるをとめるを
著しく激敎猶丸のあまりに
ゑきるを省くものなれば画器に
今のおかむ事をくほし信て志ざらく
流行に於られたれば其れをあふし
しやすくといふ

十返舍一九誌 (貞)

東男連理緒

糸撰本町肩といへる浄瑠璃紀上右衛門
田辨二ちかるものゝ著さ所にして上妙赤蝶
の強動を發揚せし。本町經五郎。半時九郎
玄壽。といへる男作の事跡をつゞ里合せしなり。
予書肆の需にまゝ是を原本となして。
糸佐久良のいとくりいざし。絵に七枚の帖となし
つるへいとの五ゑに染やまた童蒙の天然をみ
ちびく。偕柳ともなしんと。孝貞の二篇を綴
ちるまさしく志可利

己初春 十返舍一九識 (貞)

衆心復如面　塵風豈得同
可歎因縁杲　善悪念無窮

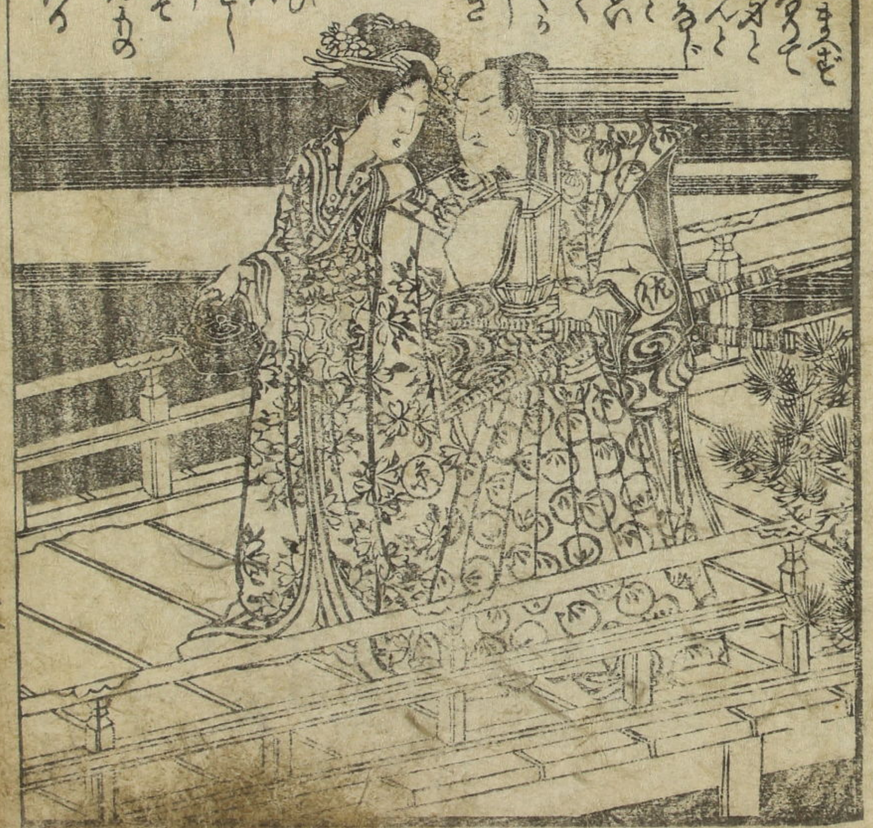
傚戯場之標題冊中

之俊傑俠客之省像寫之圖

中春のにしきをさらに繋くなり
風乃よりたる　東都の以て　東寧舎

今ハむし上まう
ものあの志やうしも
あら木さりの所
ごのときこえるハ
るいらいぶんぶの
志れんてていせいきんごくに
ひいでうれんちうにうん原
佐たらのせがれたゆうといふハ
生れつききやしやかうまう
をこのくぶんもおわうこに
志やうろしそのうへいろて
びうんのきこえさうくこれにころをうけ
ざるかのハなうりる中にもおくがこの佐
こしたふにふいとらいふハ町人のむまちゆて
いとけなきとき
よりこのはやうこ
にわうとうしこと
十七のたるのころはうこひぞめの夜
そらうトの出あひ
がしらにくまちよく
の大風にきえるが
ろんのたしとなりて たゆうこに
わかりこがひにゆうぎいひうハ

ごうげのあと さえとときこまんぞ
志のびあふとてうぎうきなりて
ついにふいとれうでなるぬ身と
なりたれバ女人いうがいせんと
ふをいさめうしたるまおるゞ
志中に山ぎとうえ年をと
いふとう侍せいつうん也い
にしていんよくのんふうく
なてようといとがあてやう
なるにころをなやまし
よきおりもあらバくきこ
おしきんとんがけまこれ
人志れぞろんぞよを
おうりれどくまゆも
ふれぎおしまぐさうく
とをくちおしくおりひ
おうしおうふしといとい
たゆうとふくいくうのせし
といふことをきいぐし
大きにせきこそ何とぞ
このうつんをたらさんもの
をあさゆふむすを
とがしたる



さてまたそのころそなたのあづまのいろざとみるごとくきこえもしやのとりざがくいふぜんせいありやこざてんてうつるみてうらうらんとりのこのもるざきてくらひとりるれそあるこがひこをへんのやくそくとおーそれもかくさぬるろもろんろきろうんをこてしてものれがらさいはろうへとへんもあれをみがのこもたかひきうれてあおれあるくそんーきみろうへくらんあーこれもまさきさ

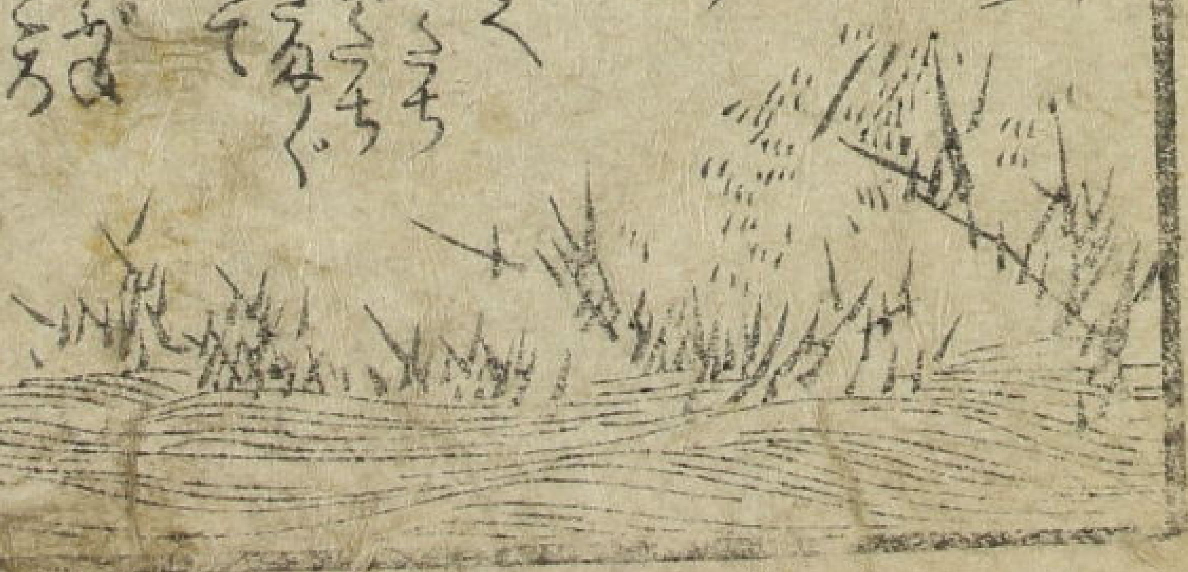
とろをとうけてこびくろんおそよるごとおろうてきれどもまるざいろくらひとふくらひうみろうへんのふおあこごれをみろうへんへつるみろうさるざきてむろまうしきゆをきてくきのろきつるみろうみ出合そろうそくつるみろうみろんろおそけるろうるそもきとゆうごうけつゆてきーゆうさくまくいろまんもひろぬおとるれべのろそろふろうもそ大なろんろんろれどもぶんぐあいまろもろあめてせひるくまの見へごびふゆごるとびーをおろそまれるる

さてうえそのころ
大きゃうひでよりこそ
田もとこうれをそろる
ゆへひやくしゃう
なげきこるこ
いろくもんがう
ふきさせい
あるごひきれた
あばしをこふ
うう井其の角
のよそういわい
よのそうしゃう
又なげうのつるう
へまんけいしゃう
とそのこころの
ひやくしゃう
うちふせうや
他がしきうを
又そのふやうあれ
とそこうじそのいわ
ろうくふみぶうき
きうくそうしゃう
きうべこのひとを
このうそあるごひ
のうことを
よはせいうく

ろうのうしきせい
をけてあをといのる
ぶーとらよおのく
もうとるうろく
きうくうまんぜん
まうろうとうそろう
ままきてあるごひ
の句をうのこるる
きうくおきふこなう
むりのうんなうじが
おすの川みへいろ
ふせきこぶ在の
うこふみなどふじ
なくこまちうぶを
ろうや日のめ
ろうべいろうそ
なをふうせいしく
ろうをのこそふ
まぶんしこふうあ
人ぐのうこうれべ
きまんもうなう
しそんこうもあ
もれこをされみひ
しろうみろく
よのうなのをこふ△

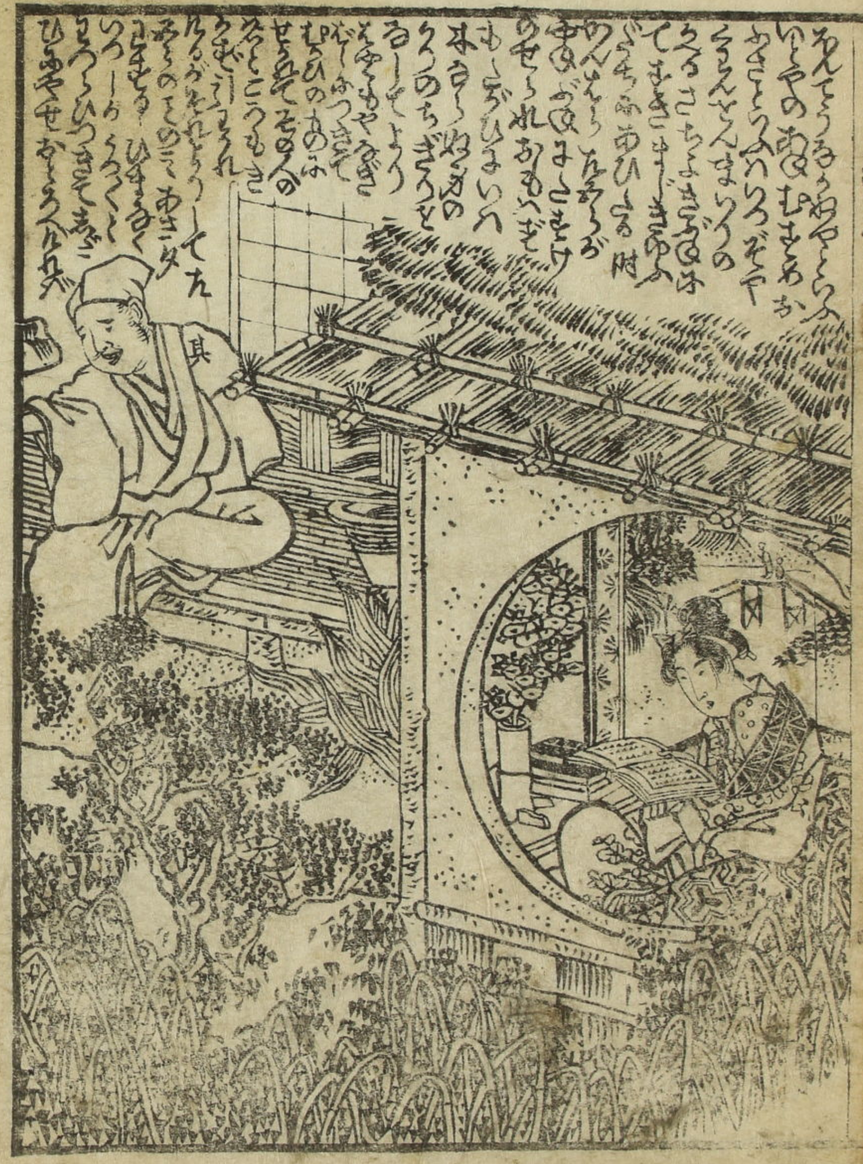
△あるときよのなかおさまりてせい
いらぬてんかをおどろかしてきこえ
やれそれおぢいさんしかくとかも
ひもとよむぞうでおのおのうらひ
ぐさくさのことなりてもれたりとも
そのわけをこのんでにいでたりへき
こゝんーいのりてをかさねあわす
まつりをしたくさまざまに
あそびしかるにひやうせうども
いかなるとのかねまいらつく
まさしくやあわせてまつりとを
うらしあるしひまるにおもしろし
そもそも今まいる子
なぶるりゆうのもとをかける
まつでさかふいくのとうびき
くすりよかるべしぜひくおれくが
ひつじのさうなまさそさか
なかれべしもひくふさのとく
やうらくぜんたいよりさつき
そのさきなりけりきくおほき
ふとなりくらせんくさなくきん
ぜんにわづきらんにいりての
まゆをとりひてつるをつぎ
ゆるいゆふぜうや田をんあつりの
かみよいとよろこびたりけり

むかしくぎんじやうのみなみ
ぎやうかうにせいてんきまりいろづち
おびたゞしく大あめもやちくを
ながれるやうにひとくぐよろこび
きくさそれいゆきてすちれるふ
かのあをくもにむかふひやくしやう
せいてんのくさをきて出しも
ふちまちとの大あめにあひて
このくさにおちくされおもむろにひとく
かのもおがるむらのさくかのうち
まちのきかひのくにおよびくうち
くりきくをせうやうそもおひさなく
かなし此今もとのとろつくて
よくへのおもわりとのおもしろの
せんずるものいようのかけわのに
わうちのりあるがあがなむしをまぐるころ
おかのいみやらららしかるりかさ
わたくぜんでものくらぬかくまりくやさて
とふりれがせんども出きてわろをおしきらて
もちもうのせあども一人とも見やつれ
ちよきざゆてこの大あめをおのさきかひく
あわりくとおりおなじくおもひのまろのて
わがをあろひくいろあをさふてうらゝにおそれ
とろやまりてあめやらじねーそれるそ



ロたゝきこゑをかぎりにおそきのぐるまおかひせそろふみさーづーてふをはこをそくそうけてこぐふなの中へさしかけの世ろのぞうの世へまこふを世ーろふ松してようこふそこぐそうくたゝこつくろのろみそうろうかのごいやうこぜきろまうをぐれてやさーげふるゆくおぢさんにうそいふなをかいこまをうこ東ろうこきこふ松てさふぐれるーのこでふおかーろおうくかのふよをてくごひのふのうちをおにあいついようちそけてこうみきゆとぐろうゆろそもの

ゆぞうへやなぐふおのうろうてそうついきこうろうこびねそ、せんごもあくをこうらびきこゆそそのうちあゆもゆぶうこうくてせんとうこのこころをこぎいぶーわどうくやるぎこびへはきこうろるこのうたおうのつうゆあーうがあのくさをぶごれいふおうひもよろぎをれそぶるさうけふうぬをうろうけおのごあうけてつるそーこうちつれろゆをふるこのそれそろうこうをくちおくいきごふうゆるうちろそをきんものさいろくそいそぎこをせまうろうごこのそゆとなろそもゆむふおのひみそうくのこころをさろーこいこいつみそろぐるのを当ころ日うれんるゆへみそくろそをしいひあせゆんんをとうろけ△


其

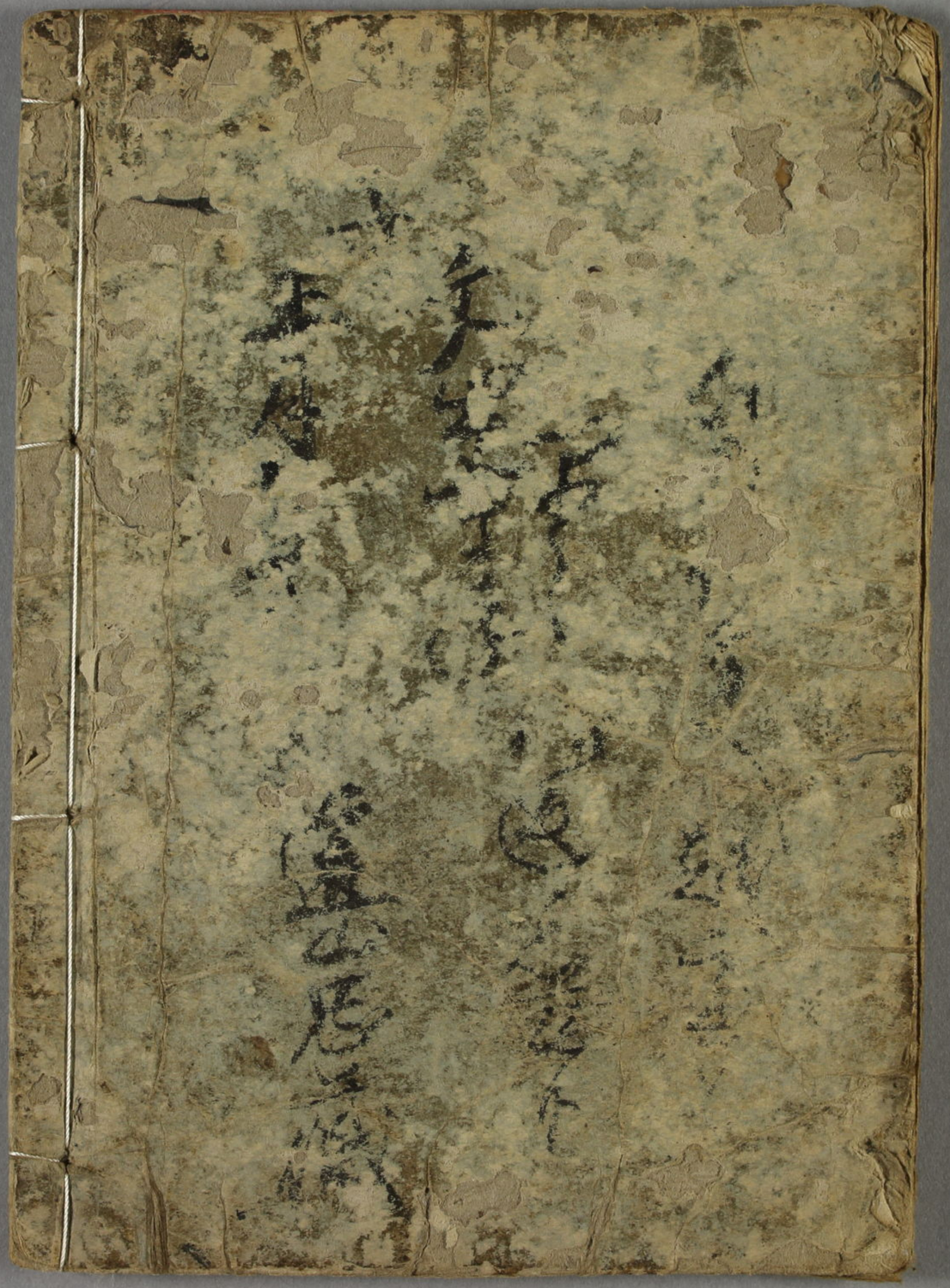
文化巳春新鐫讀本目錄 栄邑堂版

逆旅風聲 毛呂年津奈 十返舍一九著 勝川春亭画 全五冊

甲斐鰍澤仇討後篇 十返舍一九著 勝川春亭画 全三冊

道中膝栗毛八篇 一九著 全三冊

[illegible]

[illegible] 旧観帖三篇 東都[illegible] 感和亭鬼武著 全一冊

三庄太夫 榮枯[illegible] 梅暮里谷峨作 画狂人北斎画 全五冊